

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073600514		
法人名	社会福祉法人 豊資会		
事業所名	グループホーム どんぐり		
所在地	福岡県古賀市青柳町803番地 (電話) 092-943-7622		
自己評価作成日	平成 24 年 9 月 30 日	評価結果確定日	平成 24 年 12 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「グループホームどんぐり」は緑に囲まれた古賀グリーンパークに隣接した豊かな自然環境の中に位置する。自然の恵みを五感で感じながら生きるというコンセプトで、代表者の自らの両親の介護の経験を通して感じたり、思われた事をもとに社会福祉法人を立ち上げられた。「迅速・正確・気配り」をモットーに自分や家族が心から利用したいと思われる医療・福祉サービスを提供し、グループホーム独自で作成した”介護10か条”にもとづいたサービスを提供している。入居者一人ひとりの意思を尊重し、有する能力をできるかぎり活かしながら、家庭的な雰囲気の中で、その人らしく暮らし続けることができるよう全職員で取り組んでいる。入居者の穏やかな笑顔からも伺えるように安心して過ごせるグループホームである。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 24 年 10 月 19 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

緑豊かな公園内に位置している2階建2ユニットの事業所である。医療法人が母体であり、市内および隣市に介護サービス事業所や医療機関が点在しており、希望すれば法人内の協力医療機関による往診や訪問看護による病状管理など、総合的に医療面のサポートが受けられる。
事業所は、スタッフ・サービスの質を高めるため職員教育に力を入れ、職員が働きやすい職場環境を構築している。また利用者一人ひとりが家庭的な雰囲気の中でゆっくりと安心して暮らせるよう、法人理念および事業所独自の「介護10か条」に基づき、地域の中でその人らしく過ごせるよう、個別ニーズに応じた支援に努めている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの方針を運営規定や重要事項書に明記し法人理念に基づき「入居者一人ひとりが主役です」をホーム理念に掲げている。法人やホーム理念を玄関の「しいの木庵」のボードに提示している。	法人理念をもとに事業所独自の理念（入居者様一人ひとりが主役です）をつくりあげており、職員は日々の申し送り時に法人の基本理念、事業所独自の介護10か条等を唱和し、月1回のミーティングの中で具体的な取り組みについて話し合い、理念の共有と実践につなげている。	地域とのつきあいは盛んに行なわれているが、事業所独自の理念および事業所独自の10か条の中には地域密着型の視点がない。今後地域密着型の視点を盛り込んだ独自の理念の作成を検討していただきたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎年地域の小中学生と交流があり今年もふれあい活動で来所した小学3年生と交流を楽しんでいる。児童とのふれあいコーナーでは写真たてを一緒に作成された。隣接する介護予防支援センター来所者との交流や地域の公園への参加は地域の人々と交流する機会になっている。	地域行事への参加や事業所主催の夏祭、文化祭等の行事に地域住民を招いたり、隣接する小学校との交流、地域のボランティアの受け入れなど、日常的に事業者と地域とのつきあいは盛んである。また、玄関入り口横の「しいの木庵」（地域特有の建設様式を取り入れた建物）は、来訪者の憩いの場となっており、気軽に立ち寄りやすい雰囲気を作り出している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学生の職場体験を通じて認知症の人の介護や支援を見ることによって地域に発進できればと考える。ボランティアの方との交流もいれている。今後は地域の方にもっと理解して頂くように考える		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は入居者家族・行政書士、銀行理事、行政職員、民生委員、地域代表などの参加で行われている。参加者の意見をうかがい、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、サービスの利用状況や評価への取り組みなどを報告している。その他、行政書士による成年後見に関する個別事案の紹介を行い、家族へ権利擁護に関する制度の理解を図った。また、委員より家庭菜園作りについて提案あり、地域住民によるボランティアで畑作りの支援が受けられるなど、会議での意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、行政の担当を管理者が訪問しグループホームの利用状況や空き情報を報告している。相談事も気軽に出来る関係づくりができ、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。今後とも市町村との連携を深めていきたいと考える	研修と情報交換を目的とした市内地域密着型サービス事業所のネットワーク研修会に参加しており、市担当者との連携を図っている。また、利用者の紹介について等、地域包括支援センターと連携をはかり対応している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修に参加し伝達講習を行ない、職員全員学ぶ機会も作っている。今後も研修があれば参加を考える。	日中は居室・玄関の施錠はしていない。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添い等に対応している。また、近隣住民（組長）へ協力依頼をしており、声かけや連絡をもらえる関係を築いている。職員は身体拘束に関して、研修への参加や伝達研修など学ぶ機会があり、テキスト、研修記録・報告、マニュアル等整備されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し伝達講習を行ない職員全員学ぶ機会も作っている。職員一人ひとりが勉強会で学習し今後も研修があれば参加を考える。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業を活用している入居者がおり、制度など理解する為に学習会を開催している。家族会などで制度の説明と施設内にパンフレットを整備し、入居者や家族に配布している。	制度に関して、利用者家族には契約時に説明をしており、家族会の場でも説明を行なっている。また運営推進会議の場において、行政書士の委員から個別事案を用いて制度について説明を行なった。 職員は制度について研修への参加や伝達研修など学ぶ機会があり、テキスト、研修記録・報告、パンフレット等が整備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終結、解約、改定の時は利用者や家族会等で十分な説明をおこない理解、納得を図っている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に行政機関などやホームの意見・苦情窓口を明記し意見箱をホーム内に設置している。年2回家族会を開き、家族が意見を表出する機会を設けている。運営推進会議に出席した家族から、離園防止の施設や顔写真の整備についての意見や駐車場の溝の整備の要望があり、市担当者に相談している。	職員は、日頃から利用者が意見・要望を言いやすい雰囲気づくりに配慮しており、意思の表出が難しい利用者には、好みや生活背景から思いを推察し、選択肢を示して選んでもらうよう心がけている。 家族に対しては、来訪時に意見・要望を聴取するよう声かけに努めている。また家族は運営推進会議に出席しており、意見や要望を述べる機会がつけられている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議に常に問題や提案に対して業務会議を設け問題点や意見をまとめ一つ一つ解決していている。	月1回ミーティングやカンファレンスにて、行事や日々の運営、個別ケアに関する意見交換が出来る機会を設けている。例えば、職員の勤務時間に合わせた日課スケジュールではなく、利用者中心の日課となるよう体操時間を工夫した。 また管理者は、職員同士がサポートし合える関係性ができるよう、良好な人間関係づくりのため、管理者自身が率先して動くよう心がけている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力開発カードで職員の個々の向上心や努力を持って働けるようにしている。また、定期的に面談してより良い職場環境になるように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員はハローワークや求人広告で採用しているが資格や経験ではなく本人のやる気や人間性を重視している。雇用契約書を取り交わしサービス規程等を整備している。年次有休休暇の確保や残業手当の支給、休息の場を確保したり、法人全体で忘年会を開催し、職員間の交流を図っている。	採用選考では、性別年齢等を理由に対象から排除することはない。事業所は職員の資格取得を推奨しており、管理者は年3回面接の機会を設け、職員の自己実現のための目標設定や悩みの聴取を行っている。また、異動や離職を抑えるため、働く意欲があれば定年後の再雇用を行ったり、休暇が取りやすい体制づくりに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「自分や家族が心から利用したいと思えるサービスを提供する」との法人の理念を学ぶ機会を設けたり、ホーム独自の介護10カ条やぞうさんベシックを唱和することで、入居者の人権を尊重したケアに努めている。	法人は、職員入職時の全体研修の際に、人権教育を学ぶ機会を設け、人権教育や啓発活動に取り組んでいる。またその他の職員も、人権教育に関して、研修への参加や伝達研修など学ぶ機会があり、テキスト、研修記録・報告、マニュアル等整備されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の新任研修の研修実施し、ホームで業務内容等の研修を実施している。また、今年度も研修計画を作成し、毎月のカンファレンス時に感染症の予防、接遇、プライバシーの保護、身体拘束の研修を計画している。法人内のイントラネットで研修情報が掲示され職員はそれぞれの段階や要望に沿った研修を受講している。受講した研修は伝達講習を実施している。また、全職員が能力開発カードを作成し設定した目標を自己評価している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入し、研修会等に参加している。今年度も地域包括支援センターを中心にグループホームネットワークで年4回の研修会が計画している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人、家族で見学してもらい、本人の情報を聞きだしながら本人、家族と話し合いホームの雰囲気を理解して頂くようにしている。遊びに来てもらったりすることで馴染みの関係作りをおこなっている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている不安や要望は担当者会議で検討している。また、お話が気軽にできるように面会時に関係作りをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よりよいサービスが提供できるように、担当者会議や本人、家族との話をしていく中で対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念として「迅速・正確・気配りをもっとうに」を掲げグループホームの独自の10カ条を確認しながら、その人らしい生活を尊重することを忘れず関係をつくっていくようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を保つことが出来るよう家族に手紙の依頼を行っており、面会を可能な範囲で行っていただくように家族の関係などを大事にしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで使っていたタンスや置物を持ってきていただき、環境に馴染めるようにしている。お茶の時間など皆さんとゆっくりと過ごしていただき会話もすることで馴染んで頂いている。	職員は利用者やご家族から、生活歴、大切にしていた事や得意なこと、思いや意向など、アセスメントシートを用いて情報収集・把握に努めており、親しい人へ手紙を書く支援や、外出時に馴染みの神社や商店、理髪店などに出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者との関りの中で気づきや情報を把握に努め、カンファレンスで情報の共有をし入居者が過ごせる空間作りをしている。お互い支え合えるような環境をつくり生活の場に取り入れている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても相談支援も退居された家族から電話をいただきフォローに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々会話の中で意向の把握を行っている。また、職員間での情報の共有に努めている。	食事や入浴時等、日常生活の会話で本人の思いや意向を聞き、内容は記録するようにしている。カンファレンス等で情報の共有をしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの情報をセンター方式にまとめ把握に努めて、その方にあったより良いサービスにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での情報交換、カンファレンスの記録等により現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議前にカンファレンスを行い介護計画の見直し、担当者会議で家族からの要望や意見をまとめ介護計画を作っている。	家族の意向や医師の意見、職員の気づきや意見を反映しながらその人に合った介護計画を作成している。6ヶ月に1回と状況変化時介護計画を見直している。担当者会議で介護計画を共有している。家族から介護計画を承諾した署名・捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのキーワードを記入し、日々の実践の評価をすることで職員間で情報の共有している。介護計画の見直しをおこなっている		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会は24時間受け付けている。また、グループホーム内で家族と一緒に夕食をとんだり宿泊にも対応している。看取りもご家族様とも一緒にしたり対応している。法人内の別のサービスとの連携を活かし支援や個別の外出支援、通院など個々の満足度を高めるように入居者のペースにあわせた柔軟な対応が行われる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある公共の施設や近隣のお店に行くことで楽しみをもてる生活環境を整えている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、協力医療機関より訪問があり診療を行っている。24時間の医療連携体制がある希望があれば入居前の掛かりつけ医に受診してもらっている。看護師が医療との窓口になることでスムーズな連携が取れている。また、通院には家族の協力が得られている。	入所時に受診経過や受診の希望を確認し、希望する医療機関に受診している。毎週協力医療機関の往診がある。協力医療機関医以外の受診は急変時以外は家族が付き添いしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携をとっている訪問看護と入居者個人の契約とし、看護師と連携をとりながら支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はお見舞いにかがいが、医師や看護師より情報を得ている。退院前は出来るだけ医師や看護師と話し合いの場を作っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、診療医師、介護職員、看護師と適宜話し合いを持ち、支援を行っている。	重度化や看取りについては重要事項説明書に明文化してあり契約時に説明している。重度化した場合、往診時に医師より説明され、看取り希望がある時は家族・職員・医師で定期的に話し合いを行い方針を共有し、確認書に家族に署名をもらっている。夜間急変時は同じ法人内の訪問看護ステーションに連絡している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急訓練を適宜行っている。また、急変時の対応についても勉強会定期的に行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力を得ながら定期的な避難訓練を行っている。防災機器の取り扱い防災に関しても心構え、防災マニュアルの見直し確認を行っている。	災害マニュアルは作成しており、定期的に見直されている。消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方等避難訓練を年2回実施している。避難訓練の際、地域住民に参加の呼びかけをしているが、住民の参加までには至っていない。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護10か条を掲げ常にサービスが行えているか考え尊厳と尊重を大事にしている。退職後も遵守することを書面にて取り交わしている。	入職時に、事業所が掲げる介護10か条を通じて職員に話をしている。人権尊重やプライバシー保持については、ミーティングやカンファレンス時に繰り返し話をして意識づけるようにしている。管理者は職員が入所者のプライバシー保持ができているか、入所者との会話時等確認をしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が意向を表出やすくし自己決定が出来るように介護10か条に沿って行っている		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が意向を表出やすくしペースに沿った食事、入浴を行っている		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容時は必ず声掛けをし、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳の食器拭き等は入居者主体で職員と一緒にされる。職員は一人ひとりの嗜好を理解し入居者の様子を見ながら食事ができるように雰囲気づくりを大切にしている。	利用者と職員と一緒に食事の準備や後片付けをしている。盛り付け時はマスクをして衛生面に配慮している。アンケートや会話の中で利用者の嗜好を聞き、食事の献立に反映するようにしている。庭でとれた野菜を食材として使うこともある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は食事量についてはチェック表を用いて把握している。一人ひとりの栄養管理は施設の管理栄養士が把握しバランスの良い献立が提供され、水分が摂りにくい場合はゼリーにしたり入居者の嗜好や状態に応じた食事形態に配慮している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の口腔内のケアについては自立の方には声掛けを確認する。介護が必要な方によっては職員が本人能力によって口腔ケアをおこなっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや自尊心を傷つけないようにおこなない、失敗を減らす為アセスメントを取り声掛け誘導をおこなっている。	入所後排泄チェック表をつけて排泄パターンを把握するようにしている。おむつやパットはおむつはずしの方向で検討を行い、状況に応じて見直しをしている。トイレの声かけや失禁時は利用者を傷つけないように声かけや配慮をしている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のため飲食物や運動を毎日している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	完全個室で入居者の希望に合わせ、いつでも入浴できているようにしている。季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯など実施している。	利用者の希望を聞きながら、個室でゆったりと入浴できるようにしている。滑り止めやシャワーチェア等福祉用具を使用して安全に入浴できる環境をつくっている。入浴拒否があった場合は、利用者が安心できる介助者に交代することで浴するようになったケースがある。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めてはいるが本人が起きていたい時は一緒に過ごし、その方の生活のリズムに合わせている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬の目的や副作用を確認しカンファレンスのときも個々の確認をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、散歩、米とぎ、食事の盛り合わせ、自室の掃除など自分の役目として職員と一緒にしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望を収集し隣町の菖蒲祭りやお正月には近隣の神社に参拝などいつている。	散歩に適した緑の多い場所なので、散歩は天気が悪い時以外はほぼ行っている。利用者の希望に応じて、年に数回神社やお祭りを見に行ったり、週1回程度の買い物・ドライブに出かけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物があるときは自分の財布から買物をしていただいている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族に手紙を出したいと希望があるときは手紙を書いて出している。お電話を掛けたいときも対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明を工夫したり、カーテン・障子などで日差しの調整を行っている。リビングには和室コーナーがあり、肌寒い時期はこたつがセッティングされ、入居者同士がゆっくりと談話される様子が伺われる。季節の花や入居者の作品を飾ったり、生活感や季節感のある居心地が良い木のぬくもりが伝わる家庭的な空間になっている。	リビングは明るく、照明は丁度よい。季節に応じて利用者が作成したものが飾られおり、なじみやすい、いごちがよい空間になっている。職員の話す声や音楽の音も丁度よい大ききである。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になりたい時は小和室、和室などに腰掛けて本や新聞を読まれたり工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、写真や生花・装飾品が飾られ一人ひとりの個性のある部屋となっている。自宅で使われていたなじみの家具や日用品が持ち込まれて、安心して生活できるように工夫されている。	利用者の使い慣れた家具や仏壇等が持ち込まれており、写真を飾ったり、利用者らしさを活かした居室づくりがしてある。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の準備や散歩に行くときも自分で出来ること理解されることは見守りながら一緒におこない自立した生活が送れるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの方針を運営規定や重要事項書に明記し法人理念に基づき「入居者一人ひとりが主役です」をホーム理念に掲げている。法人やホーム理念を玄関の「しいの木庵」のボードに提示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年地域の小中学生と交流があり今年もふれあい活動で来所した小学生3年生と交流楽しんでいる。児童とのふれあいコーナーでは写真たてを一緒に作成されました。隣接する介護予防支援センター来所者との交流や地域の公園への参加は地域の人々と交流する機会になっている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学生の職場体験を通じて認知症の人の介護や支援を見ることによって地域に発進できれば考える。ボランティアの方との交流もいれている。今後は地域の方にもっと理解して頂くように考える		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は入居者家族・行政書士、銀行理事、行政職員、民生委員、地域代表などの参加で行われている。参加者の意見を伺いサービス向上にいかしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、行政の担当を管理者が訪問しグループホームの利用状況や空き情報を報告している。相談事も気軽に出来る関係づくりができており行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。今後とも市町村との連携を深めていきたいと考える		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修に参加し伝達講習を行ない職員全員学ぶ機会も作っている。今後も研修があれば参加を考える。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加し伝達講習を行ない職員全員学ぶ機会も作っている。職員一人ひとりが勉強会で学習し今後も研修があれば参加を考える。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業を活用している入居者がおり、制度など理解する為に学習会を開催している。家族会などで制度の説明と施設内にパンフレットを整備し、入居者や家族に配布している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終結、解約、改定の時は利用者や家族会等で十分な説明をおこない理解、納得を図っている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に行政機関などやホームの意見・苦情窓口を明記し意見箱をホーム内に設置している。年2回家族会を開き、家族が意見を表出する機会を設けている。運営推進会議に出席した家族から、離園防止の施錠や顔写真の整備についての意見や駐車場の溝の整備の要望があり、市担当者に相談している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議に常に問題や提案に対して業務会議を設け問題点や意見をまとめ一つ一つ解決している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力開発カードで職員の個々の向上心や努力を持って働けるようにしている。また、定期的に面談してより良い職場環境になるようにつとめている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員はハローワークや求人広告で採用しているが資格や経験ではなく本人のやる気や人間性を重視している。雇用契約書を取り交わしサービス規程等を整備している。年次有休休暇の確保や残業手当の支給、休息の場を確保したり、法人全体で忘年会を開催し、職員間の交流を図っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「人権や家族が心から利用したいと思えるサービスを提供する。」との法人の理念を学ぶ機会を設けたり、ホーム独自の介護10カ条やぞうさんベシックを唱和することで、入居者の人権を尊重したケアに努めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の新任研修の研修実施し、ホームで業務内容等の研修を実施している。また、今年度も研修計画を作成し、毎月のカンファレンス時に感染症の予防、接遇、プライバシーの保護、身体拘束の研修を計画している。法人内のイントラネットで研修情報が掲示され職員はそれぞれの段階や要望に沿った研修を受講している。受講した研修は伝達講習を実施している。また、全職員が能力開発カードを作成し設定した目標を自己評価している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入し、研修会等に参加している。今年度も地域包括支援センターを中心にグループホームネットワークで年4回の研修会が計画している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人、家族で見学してもらいたい本人の情報を聞きだしながら本人、家族と話し合いホームの雰囲気を理解して頂くようにしている。遊びに来てもらったりすることで馴染みの関係作りをおこなっている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている不安や要望は担当者会議でおこなっている。また、お話が気軽にできるように面会時に関係作りをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よりよいサービスが提供できるように担当者会議や本人、家族との話をしていく中みつけ進めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念として「迅速・正確・気配りをもっとうに」を掲げグループホームの独自の10カ条を確認しながら、その人らしい生活を尊重することを忘れず関係をつくっていくようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を保つことが出来るよう家族に手紙の依頼を行っているし、面会が可能ならしただくように家族の関係などを大事にしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで使っていたタンスや置物を持ってきていただき環境に馴染めるようにしている。お茶の時間など皆さんとゆっくりと過ごしていただき会話もすることで馴染んで頂いている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者との関りの中で気づきや情報を把握に努め、カンファレンスで情報の共有をし入居者が過ごせる空間作りをしている。お互い支え合えるような環境をつくり生活の場に取り入れている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても相談支援も退居された家族から電話をいただきフォローに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々会話の中で意向の把握を行っているまた、職員間での情報の共有に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの情報をセンター方式にまとめ把握に努めて、その方にあったより良いサービスにをしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での情報交換、カンファレンスの記録等により現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議前にカンファレンスをおこない介護計画の見直し、担当者会議で家族からの要望や意見をまとめ介護計画を作っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのキーワードを記入し、日々の実践の評価をすることで職員間で情報の共有している。介護計画の見直しをおこなっている		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会は24時間受け付けている。また、グループホーム内で家族と一緒に夕食をともにしたり宿泊にも対応している。看取りもご家族様とも一緒にしたり対応している。法人内の別のサービスとの連携を活かし支援や個別の外出支援、通院など個々の満足度を高めるように入居者のペースにあわせた柔軟な対応が行われる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある公共の施設や近隣のお店に行くことで楽しみをもてる生活環境を整えている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、協力医療機関より訪問があり診療を行っている24時間の医療連携体制がある希望があれば入居前のかかりつけ医に受診してもらっている。看護師が医療との窓口になることでスムーズな連携が取れている。また、通院には家族の協力が得られている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携とっている訪問看護と入居者の個人の契約とし看護師と連携をとり支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はお見舞いに伺い医師や看護師より情報を得ている。退院前は出来るだけ医師や看護師と話し合いの場を作っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、診療医師、介護職員、看護師と話し合いを適宜持ち支援を行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急訓練を適宜行っている。また、急変時の対応についても勉強会定期的に行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力を得ながら定期的な避難訓練を行っている。防災機器の取り扱い防災に関しても心構え、防災マニュアルの見直し確認を行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護10カ条を掲げ常にサービスが行えているか考え尊厳と尊重を大事にしている。退職後も遵守することを書面にて取り交わしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が意向を表出やすくし自己決定が出来るように介護10カ条に沿って行っている		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が意向を表出やすくしペースに沿った食事、入浴を行っている		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容時は必ず声掛けをし、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳の食器拭き等は入居者主体で職員と一緒にされる。職員は一人ひとりの嗜好を理解し入居者の様子を見ながら食事ができるように雰囲気づくりを大切にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は食事量についてはチェック表を用いて把握している。一人ひとりの栄養管理は施設の管理栄養士が把握しバランスの良い献立が提供され、水分が摂りにくい場合はゼリーにしたり入居者の嗜好や状態に応じた食事形態に配慮している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の口腔内の汚については自立の方には声掛けを確認する。介護が必要な方によっては職員が本人能力によって口腔ケアをおこなっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや自尊心を傷つけないようにおこない、失敗を減らす為アセスメントを取り声掛け誘導をおこなっている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のため飲食物や運動を毎日している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	完全個室で入居者の希望に合わせて、いつでも入浴できているようにしている。季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯など実施している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めてはいるが本人が起きていたい時は一緒に過ごし、その方の生活のリズムに合わせている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬の目的や副作用を確認しカンファレンスのときも個々の確認をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、散歩、米とぎ、食事の盛り合わせ、自室の掃除など自分の役目として職員と一緒にしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望を収集し隣町の菖蒲祭りやお正月には近隣の神社に参拝などいつている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物があるときは自分の財布から買物をしていただいている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族に手紙を出したいと希望があるときは手紙を書いて出している。お電話を掛けたいときも対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明を工夫したり、カーテン・障子などで日差しの調整を行っている。リビングには和室コーナーがあり、肌寒い時期はこたつがセッティングされ、入居者同士がゆっくりと談話される様子が伺われる。季節の花や入居者の作品を飾ったり、生活感や季節感のある居心地が良い木のぬくもりが伝わる家庭的な空間になっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になりたい時は小和室、和室などで腰掛けて本や新聞を読まれたり工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、写真や生花・装飾品が飾られ一人ひとりの個性のある部屋となっている。自宅で使われていたなじみの家具や日用品が持ち込まれて、安心して生活できるように工夫されている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の準備や散歩に行くときも自分で出来ること理解されることは見守りながら一緒におこない自立した生活が送れるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない